



我国では初の試みとして、EXPO’85会場内に設置されていた、国連平和館（直径41M、高さ23.7Mのドーム状のもので、緯線、経線方向にPC鋼線によりテンションをかけた154枚のコンクリートパネルを連続体とした特殊構造物）を爆破工法で瞬時に解体しました。

従来の機械、鋼球等による工法では危険が伴うことと、費用が割高につくと云う理由からこの工法が採用されました。使用した爆薬はエマルジョン系爆薬約300kg、雷管はMSの1段から15段、DS3段から15段迄の28種類、約1,200ヶで結線は基礎部とドームの2回路に別けて爆破しました。

尚、この工事の設計、施工管理は過去25年間に3000件以上の構造物爆破の実績をもつアメリカのC.D.I.(Controlled Demolition Inc.)社によって行われました。

（昭和61年3月施工）
 （茨城県筑波郡筑波研究学園内）
 受注先 ㈱間組



国連平和館爆破連続写真

